

長崎の建築を訪ねて (今井兼次作品を中心に)

お茶の水女子大学名誉教授 田中 辰明

はじめに

(一社)日本断熱住宅技術協会(平田恒一郎会長)はマリンメッセ福岡で2017年9月16,17日に開催された「住まいの耐震博」にブースを出し、健全な断熱技術の普及に努めた。これに合わせ、長崎で9月15日に研修会を行った。これは協会が2017年1月14日にバルセロナでアントニオ・ガウディーの作品サクラダ・ファミリア、カサ・ミラ、グエル公園などを訪問し、研修を行ったことに続くものである。この研修会の参加者はガウディーの作品に大きな感銘を受け、またガウディーの気迫に圧倒された。そしてガウディーを日本に最初に紹介した建築家今井兼次先生に関心を持った。今井兼次先生の作品で最もガウディーの影響を受けた作品というと長崎の日本26聖人記念聖堂、聖フィリッポ教会(西坂教会)である。この教会を是非見学しようと話し合った。その日は意外に早くやってきて、9月16,17日の耐震博に合わせて行う事となった。

1. 長崎駅集合

研修会参加者は9月15日午前11時30分に長崎駅に集合することになっていた。前日博多に宿を取った筆者は特急「かもめ」に乗車集合時間より少し早く長崎駅に到着していた。駅には長崎名物の龍踊りに使用される龍が飾られ、遠来の客を歓迎してくれた。龍踊りは、日本の三大祭りの一つとして有名な、長崎諏訪神社のくんにちに奉納される勇壮な郷土芸能である。もともと中国から移入されたもので、中国では五穀豊穡を祈る雨乞い神事に始まったものである。長崎では唐人屋敷の中で行われていたが、享保年間に隣接する本篁町の町人が習って「おくんち」の奉納踊りとなったそうである。唐人たちの指導を受けたが、300年余りの間にその踊り方は非常に巧みになり、日本独特の巧妙な演技を見せるようになっている(写真1)。



写真1 長崎駅構内にある龍踊りの龍

2. 中華街

11時30分に(一社)日本断熱住宅技術協会の長崎在任の会員御塚博隆さんに迎えられ、一同集合した。長崎での案内は全て御塚会員にお願いしてある。まず中華街に案内して頂いた。横浜、神戸とここ長崎の中華街がわが国の三大中華街と言われている。古くから中国人が長崎に住んだという証である。南北250メートルの十字路には長崎市市の姉妹都市である福建省福州市の協力で石畳が敷かれ、中華料理店や中国雑貨店が約40軒、軒を連ねている。中華街の四方、東西南北の入り口には中華門が



写真2 長崎中華街の有名中華料理店で会食



写真3 記念館外壁に埋め込まれた陶磁器



写真4 麦の図柄の皿

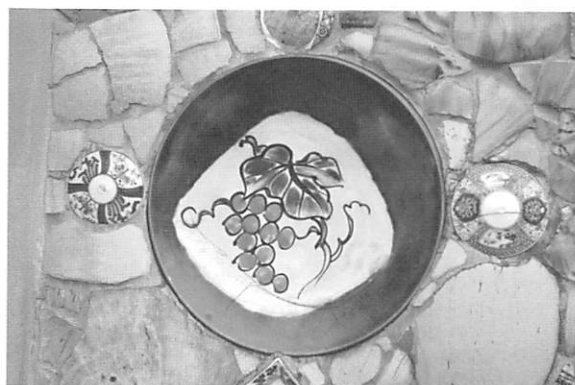


写真5 葡萄の図柄の皿

建っている。門の敷石に彫られた四神は五行に従い色が定められている。玄武門(北門)には「長崎新地街中華街」の書がある。御塚さん推薦の中華料理店名物の長崎ちゃんぽんで会食を行った(写真2)。

3. 日本26聖人記念館と日本26聖人記念聖堂、聖フィリッポ教会(西坂教会)註2)

ここでは御塚さんの手配で、日本26聖人記念館のマネージャー宮田和夫さんが案内して、大変理解しやすい解説をしてくださった。長崎はキリシタンの歴史から生まれ、その歴史を代表する町である。1570年長崎開港時からキリシタンと結ばれ、26聖人の殉教は特に意義深いものであった。殉教地は現在の西坂公園であった。戦

後長崎の原爆被害から立ち上がり、殉教地を公園に代え、昭和31年に県はそこを史跡として指定した。その敷地内に昭和37年舟越保武氏が26聖人記念碑の彫刻を作った。そして今井兼次先生の設計により、記念館が作られた。この目的は①26聖人の美德を讃え、そのメッセージを伝える、②日本での聖フランシスコ・ザビエルの渡来から明治時代までのキリスト教の歴史を紹介する、③キリシタン文化を紹介することである。特別展示室にはかくれキリシタンの展示があった。一見弥勒菩薩像に見せて、それがキリストであるという彫刻も展示されていた。長崎の出島で日本と南ヨーロッパの文化の交流があり、長崎が発展したことも理解できた。記念館の外壁に施された装飾の陶磁器(写真3)は、京都や長崎の工房で作られたもの、メキシコやスペインから送られたものも含まれ



写真6 26 聖人記念碑と日本 26 聖人記念聖堂、聖フィリッポ教会(西坂教会)



写真8 教会内部



写真7 教会の塔は16mの高さがある

ているそうである。ガウディがグエル公園などで採用した手法と同じく地域の住民から集めた使用済の皿なども含まれている。「今井兼次先生夫人から寄贈された皿も使用されていた」と案内の宮田さんが説明してくださった。その1枚は麦の図柄(写真4)、もう一枚は葡萄の図柄(写真5)である。麦は聖書に2番目に多く出てくる植物で、合計200ヶ所にのぼる。「麦」は受難の前にしてキリストが語った、「はっきり言っておく、一粒の麦は地に落ちて死ななければ一粒の麦である。だが、死ねば多くの実を結ぶ」(ヨハネによる福音書12:24)にもみられる。ブルーノ・タウトが改修したウンターレキシンゲンの教会にも麦の絵があった。では一番多いのはどの植物か？それは葡萄である。聖書の世界ではオリーブ、イチジクの栽培が気候に適していた。葡萄は葡萄酒を醸造するために沢山栽培された。葡萄は「主と主に連なる者たち」の象徴的な意味がある。新約聖書テモテへの手紙5:23で「これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、度々起る病気のために。ぶどう酒を少し用いなさい」と書かれている。かってドイツのエスリンゲンを訪れた時も

水質が悪く、水代わりに現地のワインを飲むという話を聞いた。今井先生夫人は葡萄の図柄の皿も提供されていた。今井先生ご夫妻は敬虔なクリスチャンであられたのであろう。

記念館に隣接して日本26聖人記念聖堂、聖フィリッポ教会(西坂教会)が建っている。1962年にガウディ研究の一人者であった、早稲田大学教授の今井兼次先生の設計で完成した(写真6)。1962年というと筆者が早稲田大学建築学科3年生の学生時代であった。その時に今井先生がこの教会の設計に尽力されていたのであった。26聖人が実際に殉教した場所に建った教会ではあるが、すでに大浦天主堂の正式名称に「26聖人」の名前が使用されていたために外国人宣教師6人のうちの一人でメキシコ人初の聖人となったフェリペ・デ・ヘスマ(聖フィリッポ)の名から教会名がとられた。外部に力強く聳え立つ二つの塔は16mの高さがある(写真7)。教会正面から見て左の塔は、祈りと賛美の塔で、聖母マリアを表している。右の塔は恵みが下がってくる塔で、聖霊の贈り物を象徴している。教会内部は適度にステンドグラスを

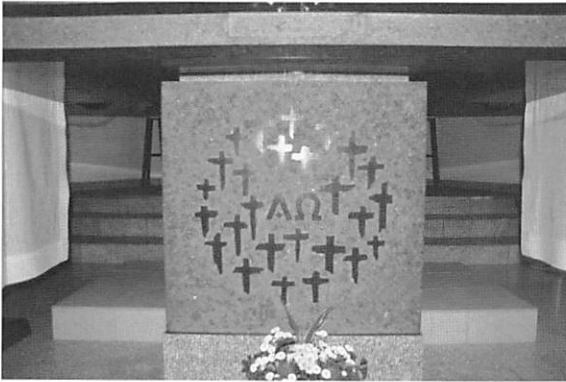


写真9 キリストを囲む26聖人



写真10 殉教者の苦しみを表す樟の根



写真11 26聖人が京都から長崎まで苦しみつつ歩んだ道を示すレリーフ(今井兼次作)



写真12 長崎の街

使用し、祭壇に向かって左側には聖母マリア像、右側に教会の保護者である聖フィリッポの像がある(写真8)。教会内祭壇の正面にはキリストを囲む26聖人を十字架で示したレリーフがある(写真9)。中央にギリシャ語の(A)と(O)が刻まれており、これは始めと終わり、すなわち「永遠の神」を示している。その周囲を26聖人が十字架となって取り囲み神を礼拝し、賛美し、感謝をささげている。教会外部には大きな楠の根が横たわっている。楠は長崎に多い樹木だそうで、この根は今井先生が発見されたものである。殉教者の苦しみを表しているようだ(写真10)。教会の敷地内には今井兼次作として26聖人が1597年1月4日に京都を立ち5日に長崎に到着するまで歩き続けた苦しい旅と英雄的心をレリーフにしたものがあつた(写真11)。小石で26聖人を表す、26粒の葡萄も作られていた。筆者は26聖人とは長崎にいたキリシタンが秀吉の怒りにより、長崎で処刑されたものと思込んでいた。しかしそうではなく京都から処刑地の長崎へ徒歩でやってきたのであつた。教会から外を見渡すと、急な斜面に墓が沢山並んでいた。そして仏教寺

院があり、やや遠方には観音像が建っていた(写真12)、案内して下さった宮田さんはこれが長崎です。と解説して下さった。

4. 三菱重工株式会社長崎造船所史料館^{註3)}

一旦長崎駅に戻り、三菱重工業長崎造船所のシャトルバスに乗車して同社の史料館へ向かった。ここでは特別に案内の係の方が、懇切丁寧に説明をして下さった。この史料館は、長崎造船所が日本の近代化に果たした役割を長く後世に残そうとして昭和60年10月に開設されたものである。資料館として使用されている赤レンガの建物は、明治31年に三菱合資会社三菱造船所の鋳物工場に併設された「木型場」として建設されたものである。三菱重工業株式会社発祥の長崎造船所に現存する最古の建物である。昭和20年8月の空襲における至近弾や原子爆弾の爆風にも耐えて、100年の風雪に耐え、赤煉瓦は輝きを増している。我が国の近代工業の曙を彷彿させる

ものである。資料館は13のコーナーに分かれ、安政4年(1857年)に長崎造船所前身の長崎溶鉄所建設が着手された時から現在までの技術の進歩を物語る品々や貴重な写真など900点が展示され、見学には飽きるところがなかった。三菱を起業した岩崎弥太郎さらにその一族についての詳しい展示もあった。岩崎弥太郎は高知の出身である。筆者もこの史料館訪問の前日は空気調和衛生工学会大会が開催された高知にいた。

安政4年(1857年)長崎溶鉄所建設にあたり、徳川幕府がオランダから購入した堅削盤で当初は長崎で稼働していたが、一時彦島造船所へ異動し、約100年間日本の造船業の発展に尽くした日本最古の工作機械も展示されていた(写真13)。これは国の重要文化財に指定されている。その他この造船所で建造された数々の船舶の写真が展示されていた。多くは日本郵船が所有していた気品にあふれる客船であった。最初の船舶は明治20年(1887)竣工の「夕顔丸」の進水式のものであった。



写真13 長崎造船所史料館。日本最古の工作機械(重要文化財)

訪れる名所がある。御塚さんは時間の制約からこれらを省略し、黄檗宗聖寿山崇福寺を案内してくださった。九州には国宝が5件あり、3件は長崎県に2件が大分県に存在するそうである。長崎県の1件は大浦天主堂で、残りの2件がこの黄檗宗聖寿山崇福寺にあるとのことで、わざわざご案内頂いた理由が分かった。寺は明日から中秋を祝うとのことで、中国人を中心に沢山の参拝者があるとのことである。赤い提灯などが飾られ華やかな雰囲気であった。この寺院は長崎唐寺とも呼ばれ、キリシタンの弾圧が激しかった時代の寛永年間(1624~1643)、キリスト教禁令下において、中国の人たちは仏教徒であることを示すために出身地別に長崎唐寺を建設した。崇福寺は寛永6年(1629)、福州地方出身の長崎在住唐人

5. 黄檗宗聖寿山崇福寺

長崎での滞在時間も残り少なくなった。長崎の夕闇も迫ってきた。翌日9月16日はマリンメッセ福岡で開催される住まいの耐震博で(一社)日本断熱住宅技術協会はブースを出す。これに参加しなければいけない。長崎ではグラバー邸、平和公園、大浦天主堂など観光客が必ず



写真14 崇福寺第一峰門(国宝)



写真15 崇福寺大雄宝殿(国宝)

が中心となって建設した。当初、長崎唐寺は宗教的行事ではなく、航海の安全祈願、先祖供養を主目的としていた。その後、寄進により、大雄宝殿や山門、媽祖堂が建設され、寺院としての機能を持つようになった。現在では1644年に建立された第一峰門(写真14)、1646年に建立された大雄宝殿(写真15)が国宝に指定されている。その他三門、鐘鼓楼、護法堂、媽祖堂などが重要文化財に指定されている。御塚さんお陰で素晴らしい寺院を参拝することができた。

6. 住まいの耐震博に於ける (一社)日本断熱住宅技術協会の ブース

(一社)日本断熱住宅技術協会はマリンメッセ福岡で2017年9月16日、17日とブースを出し、健全な断熱の普及を目的に宣伝活動を行った。ロンドンの集合住宅火災は外断熱が原因とする新聞記事も見られたので、それ



写真16 博多の住まいの耐震博に出展した(一社)日本断熱住宅技術協会のブース

に反論する資料もそろえ、準備を行った。しかし猛烈な勢力を持つ台風18号の来襲に遭い、来場者は少なかった。折角の準備も自然災害の前にはもろく、残念な結果に終わった(写真16)。

おわりに

(一社)日本断熱住宅技術協会は横浜市鶴見区に事務所を置く。日本26聖人記念館と日本26聖人記念聖堂、聖フィリッポ教会(西坂教会)を宮田和夫マネージャーにご案内頂いた際に鶴見区東寺尾と北寺尾に国道と市道が交差するポイントがあり、国道1号線にある眼鏡橋(本当の名前は響橋)は今井兼次先生の作品であることを伺った。昭和16年に竣工している。鶴見区に本拠を置く我々がそれを知らなかったのは恥ずべきことであった。文明開化のころ、日本人は長崎の出島で西欧文化を学んだ。今回も長崎で多くの事を学ぶことができた。

(一社)日本断熱住宅技術協会は欧州外断熱協会と提携をしている。今年10月5日にワルシャワで欧州外断熱フォーラムが開催され、協会も招待を受けている。その際にポーランドの外断熱協会とも懇親会が開催される。ポーランドについては、ショパン、コペルニクス、キュリー夫人、エスペラント語を開発したザメンホフ、連帯の委員長から大統領になったワレサの事ぐらいしか知らない。これでは会食の間が持たない。しかし今回26聖人記念聖堂を訪問したことで、第264代ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世はポーランド人であったこと、西坂で殉教したメンチンスキー神父はポーランド人であったことを知った。この事により、ポーランドの外断熱協会の方々とも会話が弾むであろう。

〈参考文献〉

1. 田中辰明「バルセロナとミュンヘンの建築を訪ねて(その1バルセロナ)」月刊建築仕上技術2017年5月号
2. 日本26聖人記念館・長崎パンフレット
3. ルイス・フロイス、結城了悟訳：日本26聖人殉教記、聖母文庫
4. 日本26聖人記念聖堂、聖フィリッポ教会(西坂教会)パンフレット
5. 史料館、三菱重工業株式会社長崎造船所 パンフレット
6. 聖書、新共同訳、日本聖書協会
7. 田中辰明「ブルーノ・タウト、日本美を再発見した建築家」中公新書2169
8. 田中辰明「ブルーノ・タウトと建築・芸術・社会」東海大学出版会

〈註〉

1. 所在地：〒230-8571横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1、Tel. 045-501-5064 URL: <http://www.ndjk.info>
2. 所在地：〒850-0051長崎市西坂町7番8号
3. 所在地：〒850-8610長崎市飽の浦町1番1号
4. 所在地：長崎市鍛冶屋町